

女性受難の時代

米女優アンジェリーナ・ジョリーさんが予防のため乳房を切除したことで関心を集めている「遺伝性乳がん・卵巣がん」について、国内でも16施設が予防的な乳房切除を、21施設が卵巣・卵管切除をそれぞれ実施または計画していることが、読売新聞の調べでわかった。将来、がんを発症するかもしれないという心理的負担を減らす予防策の一つとして、国内でも広がりがつつある。

予防的切除は、「遺伝性乳がん・卵巣がん」の遺伝子変異がある人に対し、将来乳がんや卵巣がんを発症する確率を低くすることを目的に、本人の強い希望があった場合に検討される。「遺伝性乳がん・卵巣がん」の遺伝子検査をしていることを公表している全国55施設にアンケートを送り、聞き取り取材も含め41施設から回答を得た（回答率75%）。

予防的乳房切除は、既に

がん予防切除施設拡大

実施や計画を明らかにしている聖路加国際病院（東京都）、がん研有明病院（東京都）に加え、相良病院（鹿児島県）が6月に院内の倫理委員会に諮る予定のほか、中頭病院・ちはなクリニック（沖縄県）など計画中と答えた病院が13施設あった。卵巣・卵管切除は、既に実施や計画が明らかになっている聖路加国際、がん研

実施・計画 本紙調査

乳房16 卵巣・卵管21

病院名	片方の乳房にがんがあり、未発症のもう片方		卵巣・卵管
	両側乳房	片方	
北海道がんセンター	—	△	△
星総合（福島）	△	△	△
群馬県立がんセンター	△	△	△
がん研有明	△	△	△
慶応大	△	△	△
聖路加国際	△	△	△
日大板橋（東京）	△	△	△
北里大（神奈川）	△	△	△
聖マリアンナ医科大学（神奈川）	△	△	△

○は実施済み

アメリカの女優、アンジェリーナ・ジョリーさんが遺伝子がん検査の結果、乳がんになる確率が87%だと判明したため乳がん予防のために、両乳房を切除する手術を受けた。

遺伝子性乳がん・卵巣がんの予防切除。国内でも16施設が乳房について、21施設が卵巣・卵管について予防切除を実施、または計画していることがわかった。（読売新聞）

「がん予防も、ずいぶん進歩してきたなあ～！」

「早速、私も検査して、問題があったら切除してもらおう！」

それ、ホントいいことなの？ 予防ってということなの？

病気の予防に関心が高まることは、大いに結構なことではありますが問題はその「方法」ですね。

「どんな予防策を講じるか？」

アンジェリーナさんは、「グレーな部分は切除する！」という予防をされたわけですが・・・

じゃあ～次の場合どうでしょう？

さらに遺伝子がん検査が進んで、胃がんなる確率 90%、肺がんになる確率 95% 大腸がんになる確率 98%とか診断されたら

胃も肺も大腸も、全部切除するのかな？

「がんになる心配したくないから、もちろん全部切除するわよ」って・・・
それじゃ生きていけないじゃないですか（笑）

脳腫瘍になる確率 90%って診断されて、「脳、全部切除してください！」って
いう人がいたら、もう抱腹絶倒の世界ですね。

「がんにならないためには、命も惜しくない！」

本末転倒の笑い話です。（^ 0 ^）

もう一つ、今回のニュースで思うことは、女性の乳房、卵巣が「低く」見られているということです。つまり、「無ければ無くたっていい」と。

身体の中で最重要なのは「脳」と「心臓」。会社で言えば、社長と副社長のポジション。ここが止まれば、会社は倒産（=死）しますから。

かたや、特に出産を望まない女性にとっての乳房や卵巣（+子宮）というのは現代医学では、大して価値のない、係長くらいに思われている存在。

だから真っ先に「リストラ」の対象になる。お役御免と「切り捨てられる」

恐ろしいことには、乳房・子宮卵巣のリストラを断行する女医先生がいるなら
「生理が煩わしいから、とっとと切除してください！」

「子宮卵巣、いっさいがっさい、全部残らず取っちゃってください！」
そんなご婦人患者さんがいらっしゃることです・・・

妊娠を希望していなくても、閉経後でも、女性の乳房と子宮卵巣はその「お役目」が命尽きるまでであるはず。

セックスアピール、妊娠・分娩・授乳のためだけにあるのではない。

間違っているかな？

アンジェリーナさんとは正反対のことを表明している人もいます。

『がん放置療法のすすめ』の慶応大学病院の近藤誠医師です。

「乳がんで全摘手術を勧められたけど放置、22年経った今でも元気です」という68歳女性の症例があります。

最近の『医者に殺されない47の心得』はベストセラーになりました。

また、外科医として活躍されていましたが、「手術は成功した、でも患者は亡くなった」という経験を踏まえ『50歳を超えてもガンにならない生き方』を上梓された土橋重隆医師は、こんなことを記されています。

<右乳がん患者の特徴>

家庭内ストレスが極めて大きい。特に夫との関係。精神的ストレスをじわじわと蓄積して罹患した女性が多い。人生に対する向き合い方が、とても男性的。

<左乳がん患者の特徴>

人生のある時期に肉体的ストレスを一気に抱え込んで罹患した女性が多い。頼まれた事を断れない。割に合わないと思ってもつつい頑張ってしまう。優しさと責任感が人一倍あり、その無理から肉体の酷使になり発病する。

<卵巣がん患者の特徴>

口数が少なく、いつも沈着冷静。なかなか笑顔を見せない。心を閉ざす傾向。ガンを生み出している原因が自分の中にある、内面のストレスに目を向けること、自分が自分に対峙することができない。

土橋医師は漢方家ではありませんが、その鋭い洞察力・観察力は「病は気から」「心身一如」の東洋医学に相通じるものがあります。

いずれにしても・・・

現代医学の最先端の検査結果に従って、自分の生き方・考え方に目を向けず予防切除するのも自由。

乳房や卵巣をはじめ、身体は「こころ」とつながっていると考えて、自分に向き合って、太田東西薬局で予防に励むのも自由。

「どういう選択をして健康長寿を目指すか？」

主体性と覚悟が求められる時代となりました！

恥知らず

5.13

“アベノミクスで株価上昇”

やったあ～！！

ばんざ～～い！！＼(^0^)/

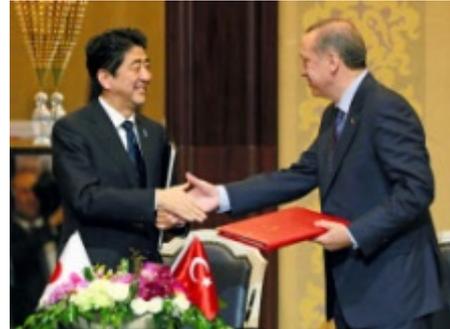
さらに日本の景気回復のために安倍総理は
トルコを訪れて原発の商談を成立させた！！

2兆円！の商談

す、すごいぞ！！

曰く

「過酷な事故の経験と教訓を世界と共有し、原子
力安全の向上に貢献していくのが日本の責務だ」



かっこいい～～！！

大地震の懸念があって、日本に建設できないならば、世界に原発を輸出しよう！！
それこそが日本経済の復興につながる！！

でも自分は、そんな政府の考えに共感するじいさんにはなりたくないな・・・

先々の子孫のことを考えて、自然、環境のことを考えて

「私たちは間違っていました。とんでもない目に遭いました。

今まだ問題解決には程遠い過酷な状況です。

どうか私たちと同じ過ちをしませんように、どうか考え直してください」m(ー) m

世界各国に対して、反省行脚すべきと思うんだけどな・・・

自分は自分の過ちを反面教師にしてみよう

「恥を知るじいさん」になりたい！

自分のことばかり 目先のことばかり

「原発事故よりも、福島のことよりも、経済と自分の資産が最優先！」

そんな

「恥知らずじいさん」には

オレはならない！ (*)